

新型コロナウイルス感染症定期予防接種についての説明書

【新型コロナウイルス感染症について】

新型コロナウイルス感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、重症化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

【新型コロナウイルスワクチンの効果と投与方法】

新型コロナウイルス感染症は、予防接種法のB類疾病に位置づけられており、本ワクチンの接種は定期接種として、高齢者等を対象に年1回行うこととされています。今回接種するワクチンは、オミクロン株JN.1対応1価ワクチンです。新型コロナウイルス感染症の重症化予防を目的として接種します。ただし、ワクチンの接種を受けても、発症等を完全には予防できないため、引き続き感染防止策が必要です。

効能・効果：SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）による感染症の予防

接種回数：1回（前回の接種が完了してから3か月以上が経過した後） ※筋肉内に接種
過去に接種歴のない方は、およそ4週間の間隔をおいて2回目接種が可能です。

接種対象：①65歳以上の方

②60～64歳で、心臓、肝臓もしくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有する方

【予防接種を受けることができない人】

- ・明らかに発熱（37.5℃以上）している人
 - ・重い急性疾患にかかっている人
 - ・ワクチンの成分に対し重度の過敏症（※）の既往歴のある人
 - ・医師が不適当と判断した人
- ※アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

【接種を受けるに当たり注意が必要な人】

- ・抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人
- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発達障害などの基礎疾患がある人
- ・過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た人
- ・過去にけいれんを起こしたことがある人
- ・ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こる恐れのある人

【接種を受けた後の注意点】

- ・ワクチンの接種を受けた後、15分以上（過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、気分が悪くなったり、失神等を起こしたりしたことがある方は30分以上）、接種を受けた施設でお待ちいただき、体調に異常が生じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- ・注射した部分は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分はこすらないようにしてください。また、接種後に体調が悪い時は無理をせず、入浴は控える等、様子を見るようにしてください。
- ・通常の生活は問題ありませんが、当日の激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。

【副反応について】

- ・主な副反応は、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等があります。また、稀に起こる重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーがあります。接種後に気になる症状があった場合は、接種医あるいはかかりつけ医に相談してください。
- ・ごく稀ではあるものの、ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に胸の痛みや動悸、むくみ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。
- ・ごく稀ではあるものの、mRNAワクチン接種後にギランバレー症候群が報告されています。接種後手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

【予防接種健康被害救済制度について】

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナウイルスワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。申請に必要な手続きなどについては、下記にご相談ください。

〈連絡先〉健康増進センター 0187-62-9301